様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：３６１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０３５８６

研究課題名（和文）スコットランド啓蒙の文明社会史論と経済学―スミスとロバートソンを中心に

研究課題名（英文）The History of Civilised Society and Political Economy in the Scottish Enlightenment: Adam Smith and William Robertson

研究代表者
古家　弘幸（Furuya, Hiroyuki）

徳島文理大学・総合政策学部・准教授

研究者番号：３０４１２４０６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：スコットランド啓蒙の文明社会史論の枠組みにおいてアダム・スミスの『国富論』の商業文明論を捉えるという研究課題について、2020年3月に「アダム・スミスにおける国防と経済」とのタイトルで、小峯敦・編著『戦争と平和の経済思想』(晃洋書房）の第2章として、研究成果を出版することができた。また、ウィリアム・ロバートソンの歴史学をスコットランド啓蒙の文明社会史論の枠組みにおいて捉えるという研究課題について、2019年11月の日本ピューリタニズム学会関西研究会における研究報告と、『ピューリタニズム研究』(2020年3月）第14巻に掲載された論文において、輪郭を示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
経済学を生んだ一八世紀の啓蒙時代の英国は、イングランドとスコットランドのユニオン体制下で市場経済が拡大し、安定した経済成長軌道に乗り、産業革命の黎明期を準備した。この地政学的背景の中で、経済思想家のアダム・スミスとスコットランド教会穏健派の牧師で歴史家のウィリアム・ロバートソンが、スコットランド啓蒙思想の知的枠組みと言える文明社会史論の知見の中で、近世の経済発展と、それを可能にした複合国家形成をどのように捉えたか、特に両者が文明の興隆と変遷、そしてその基盤にある経済的ロジックをいかに記述したかを明らかにできた。

研究成果の概要（英文）：As for the research issue of comprehending Adam Smith's take on the commercial civilisation in his Wealth of Nations (1776), within the framework of the history of civilised society and political economy in the Scottish Enlightenment, a paper was published as ‘National Defence and the Economy in Adam Smith’; as Chapter 2 of The Economic Thought of War and Peace, Atsushi Komine, ed. (Kyoto: Koyo Shobo, March 2020). As for the research issue of situating William Robertson's histories, within the framework of the history of civilised society and political economy in the Scottish Enlightenment, a paper was published as ‘The Life and Writings of William Robertson’; in The Annals of the Japanese Association for the Study of Puritanism, no. 14 (March 2020).

研究分野：経済思想史

キーワード：国際情報交換　英国　経済思想史　スコットランド啓蒙　アダム・スミス　ウィリアム・ロバートソン　複合国家　商業文明

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

一八世紀スコットランドの啓蒙思想の最も重要な貢献として、応募者の若手研究 B「スコットランド啓蒙における道徳と市場経済の把握―アダム・スミスと穏健派を中心に」(平成 24-27 年度) では、スミスを中心に道徳哲学と経済学について取り上げた。特に経済学に関しては 1970 年代以降の思想史研究の中で、ルネサンス以来の政治思想の伝統である古典的共和主義、またはシヴィック・ヒューマニズムにおける商業や公債の批判と、ヨーロッパ大陸の自然法学における財産権や交換の理論という二つの枠組みを通して、スコットランド啓蒙思想家たちがいかにして経済学の言語を形成したかが問題とされてきた。代表例がドナルド・ウィンチの『アダム・スミスの政治学』(1978 年) と、イシュトファン・ホントとマイケル・イグナティエフ共編著の論文集『富と徳―スコットランド啓蒙における経済学の形成』 (1983 年; 邦訳 1990 年) である。全体としてみれば、スコットランド啓蒙思想は当時の大学の道徳哲学のカリキュラムに組み込まれていた自然法学の枠組みを基本としつつ、共和主義的な商業批判からも示唆を受けながら、新しい時代の道徳哲学や経済学、さらには歴史学に貢献を果たしたことを、応募者のそれまでの研究では明らかにすることができた。また個別の思想家同士の間に見られる相違にも関わらず、スコットランド啓蒙思想全体に共通する特徴の一つは、人間の持つ自然な社交性についてのストア的分析であった点も、明確にすることができた。その母体となった道徳哲学はフランスとイングランドからの継承であり、それを啓蒙思想として大成したのがスコットランド人の道徳哲学者たちであった。重商主義批判で自由市場政策導入を主張している側面は共和主義的と見なすことは出来るが、全体としては自然法思想が基本であった。

以上のような応募者のそれまでの研究の結果、「文明社会史論としての歴史思想」こそが、スコットランド啓蒙思想において、特にその経済学において核心であったのではないかとの着想に至った。自然法思想を再編成することで商業の社会変革力、歴史推進力に注目する視点を提供した文明社会史観が、スコットランド啓蒙思想の根本にあったのではないかという着想である。本研究「スコットランド啓蒙の文明社会史論と経済学―スミスとロバートソンを中心に」では、フランスとイングランドから継承した道徳哲学を、スコットランド人の道徳哲学者たちが自然法の歴史を参照軸としながら、いかにして「歴史化」(historicise) し、経済学の母体として発展させていったか、また法学、政治学、経済学のいずれも、いかにして彼らがその独自の文明社会史論としての歴史思想を通して再編成し、啓蒙思想として成熟させていったのかを、まずは経済思想家スミスと歴史家ロバートソンに焦点を当てて明らかにすることが課題であった。スコットランド啓蒙思想の形成・発展プロセスにおいて、自然法思想や共和主義をはじめ、様々な思想的伝統がどのようにスコットランドに流れ込み、啓蒙の形成に寄与したかという複雑な思想史を解き明かしていく応募者の研究の全体構想において、次のステップに駒を進める重要な研究と位置付けていた。

２．研究の目的

アダム・スミスがスコットランド啓蒙思想の知的枠組みと言える文明社会史論の知見を自身で洗練し発展させる中で、いかにして新しい経済学の言語を生み出し、近世の経済発展と、それを可能にした国民国家形成、文明の興隆と変遷、そしてそれらの基盤にある経済的ロジックを記述したかを、出来る限り明らかにすることが目的であった。平成 20 年度以来の科学研究費補助金受給により、それまでスミスの『道徳感情論』(1759 年) および『国富論』(1776 年) を当時の歴史的文脈に位置づけ、農業における「改良」の推進や、スミスの場合には美的判断 (テイスト) の洗練など、その思想が啓蒙の思想運動の実践であった側面を明らかにしてきたが、本研究ではそれらの成果を踏まえ、自然法思想を再編成することで商業の社会変革力、歴史推進力に注目する視点を提供した文明社会史観がスコットランド啓蒙思想の根本にあったことを、明確に確認することが目的であった。

３．研究の方法

本研究採択期間中、毎年 8 月から 9 月にかけて、英国スコットランドのエディンバラの大学図書館や国立図書館へ赴いて多くの資料を収集・分析した。現地でしか入手できない資料の収集、文献調査は、国内外での学会・研究会発表だけでなく、アイルランド大飢饉についての英語による研究論文‘Classical Economic Theory and Policy during the Great Irish Famine’、日本語によるアダム・スミスについての研究論文「アダム・スミスにおける国防と経済」の執筆・出版に、大いに資する結果となった。

また 2010 年以降、欧州経済思想史学会 (ESHET) と、北米経済学史学会 (HES)、および国内の学会における個別研究発表を、毎年少なくとも二回以上行うという研究サイクルを確立し、研究論文の執筆と出版を継続的に進めてきた。

４．研究成果

2016 年度には、東北大学で 5 月に開催された経済学史学会第 80 回大会にて、「古典派経済学とアイルランド大飢饉」との題目で研究発表を行った。続いて米国の Duke University で 6 月に開催された The 43rd Annual Conference of the History of Economics Society (HES)にて、‘Adam Smith, John Stuart Mill and the Great Irish Famine’との題目で、また明治大学で 9 月に開催された International Conference on Economic Theory and Policy では、‘Classical Economic Theory and Policy during the Great Irish Famine’との題目で研究発表を行った。いずれも文明の発展段階と経済学の関わりについて考察する上で、18 世紀スコットランドだけに視野を限定することなく、19 世紀アイルランドとの比較史の観点を提供する研究であり、道徳と市場経済の関係について考察する上で、研究射程を拡げることが出来た。

並行して *Journal of the History of Economic Thought* に Brian Bonnyman, *The Third Duke of Buccleuch and Adam Smith* (2014)の書評を執筆した。また『社会思想史研究』にロンルド・L・ミーク著『社会科学と高貴ならざる未開人―18 世紀ヨーロッパにおける四段階理論の出現』(2015 年)の書評を、また *History of Economic Thought* に Lars Magnusson, *The Political Economy of Mercantilism* (2015)の書評を掲載した。

アダム・スミス研究としては、東洋大学で 12 月に開催されたシンポジウム「18 世紀ブリテン世界におけるコスモポリタニズム―ヒューム、スミス、バークの所論から」にて、「経済思想史における国家、ネイション、コスモポリタニズム―重商主義からアダム・スミスを中心に」との題目で、また北海道大学東京オフィスで 2017 年 3 月に開催された「戦争と平和の経済思想」第 2 回研究会では、「礫岩政体、自然法、通商―近世欧州の戦争と経済」との題目で研究発表を行った。

2017 年度には、アダム・スミス研究としては、カナダの University of Toronto で 6 月に開催された The Annual Conference of the History of Economics Society にて、‘State, Nation, and Cosmopolitanism: From Mercantilists to Adam Smith’との題目で研究発表を行った。聴衆との質疑応答や、その後の議論を通して、執筆中のスミス研究書の方向を明確にすることができた。続いて明治大学で 9 月に開催された International Conference on Economic Theory and Policy にて、‘John Stuart Mill on the Irish question during the Great Famine’との題目で研究発表を行い、それを含む研究成果を、‘Classical Economic Theory and Policy during the Great Irish Famine’と題する英語論文として完成させ、年度末の 2018 年 3 月に *Meiji Journal of Political Science and Economics*, 5 に掲載することができた。文明の発展段階と経済学の関わりについて考察する上で、18 世紀スコットランドだけに視野を限定することなく、19 世紀アイルランドとの比較史の観点を提供する研究であり、道徳と市場経済の関係について考察する上で、研究射程を拡げることができた。

並行して、「「第三の道」をめぐる英国政策事情―ブレア労働党政権 10 年史（1997-2007 年)」と題する論文を、徳島文理大学大学院総合政策学研究科・編『総合政策学入門』(晃洋書房、2017 年 11 月）の第 8 章として出版し、そのエッセンスを慶應義塾大学で 12 月に開催されたイギリス哲学会関東部会第 100 回研究例会にて、「英国現代社会民主主義における平等の概念」と題して研究発表した。現代の英国政治におけるスミスの影響の一端を掘り起こすことで、18 世紀啓蒙の文明社会史論の射程の広さと現代的意義を再認識することができた。

2018 年度には、6 月にマドリード大学にて開催された欧州経済思想史学会（ESHET）において、‘National Defence and the Wealth of Nations in Adam Smith’との題目で研究発表を行った。アダム・スミスについての研究書『アダム・スミスの商業文明』(仮題）の根幹部分の議論を発展させることができた。続けて 9 月に明治大学で開催された International Conference on Economic Theory and Policy では、‘Adam Smith on the State: Cosmopolitan or Economic Nationalist?’との題目で、同じ議論をさらに別角度から捉え直すことができた。

また、11 月に徳島文理大学大学院総合政策学研究科にて行われた総合政策学研究会第 6 回研究例会では、「スコットランド啓蒙―社会科学の源流」との題目で発表を行い、上記のスミスの議論を含めて、スコットランド啓蒙の文明社会史論について、あらためて振り返ることができた。発表の要旨を、11 月に出版された『歴史と地理』(山川出版社）第 719 号に掲載された「読書案内　啓蒙思想」で、一般向けに紹介した。

並行して、2019 年 3 月に出版された『ピューリタニズム研究』(日本ピューリタニズム学会)第 13 巻で、Gordon Pentland and Michael T. Davis, eds., *Liberty, Property and Popular Politics: England and Scotland, 1688-1815, Essays in Honour of H. T. Dickinson* (Edinburgh: Edinburgh University Press,2016)についての書評を発表した。

2019 年度には、6 月にニューヨークのコロンビア大学で行われた北米経済学史学会にて、‘National Security and Economic Growth in Adam Smith’との題目で学会報告を行い、研究期間の初年度から行ってきたスコットランド啓蒙の文明社会史論の枠組みにおいてアダム・スミスの『国富論』の商業文明論を捉えるという研究課題について、一応の成果を公表すること

ができた。9 月の明治大学における International Conference on Economic Theory and Policy、および 10 月のシドニー大学における豪州経済思想史学会でも、さらに国際学会発表を重ね、年度末の 2020 年 3 月に「アダム・スミスにおける国防と経済」とのタイトルで、小峯敦・編著『戦争と平和の経済思想』（晃洋書房）の第 2 章として、研究成果を出版することができた。

並行して、11 月にキャンパスプラザ京都・京都大学サテライト講習室にて行われた日本ピューリタニズム学会関西研究会において、「ウィリアム・ロバートソンの生涯と著作」との題目で研究発表を行い、ウィリアム・ロバートソンの歴史学をスコットランド啓蒙の文明社会史論の枠組みにおいて捉えるという研究課題について、輪郭を示すことができた。『ピューリタニズム研究』（日本ピューリタニズム学会、2020 年 3 月）第 14 巻に、要旨を掲載した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計17件（うち査読付論文　14件／うち国際共著　6件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 古家　弘幸	４．巻 52
２．論文標題 「フィリップソン先生との思い出」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『経済学史学会ニュース』	６．最初と最後の頁 p．21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 古家　弘幸	４．巻 719
２．論文標題 「読書案内　啓蒙思想」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『歴史と地理』(山川出版社)	６．最初と最後の頁 pp．44-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 古家　弘幸	４．巻 13
２．論文標題 「書評　Gordon Pentland and Michael T. Davis, eds., Liberty, Property and Popular Politics: England and Scotland, 1688-1815, Essays in Honour of H. T. Dickinson (Edinburgh: Edinburgh University Press, 2016)」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『ピューリタニズム研究』(日本ピューリタニズム学会)	６．最初と最後の頁 pp．63-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Hiroyuki Furuya	４．巻 44
２．論文標題 ‘State, Nation, and Cosmopolitanism: From Mercantilists to Adam Smith’	５．発行年 2017年
３．雑誌名 The 44th Annual Meetings of the History of Economics Society (HES), Book of Abstracts	６．最初と最後の頁 pp．35-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 古家　弘幸	4．巻 なし
2．論文標題 「「第三の道」をめぐる英国政策事情―ブレア労働党政権10年史（1997-2007年)」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 徳島文理大学大学院総合政策学研究科・編『総合政策学入門』(晃洋書房、2017年11月）第8章	6．最初と最後の頁 pp．129-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hiroyuki Furuya	4．巻 5
2．論文標題 ‘Classical Economic Theory and Policy during the Great Irish Famine’	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Meiji Journal of Political Science and Economics	6．最初と最後の頁 pp．1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 古家　弘幸	4．巻 41
2．論文標題 「英国現代社会民主主義における平等の概念」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『イギリス哲学研究』	6．最初と最後の頁 p．130-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古家　弘幸	4．巻 80
2．論文標題 「古典派経済学とアイルランド大飢饉」	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『経済学史学会大会報告集―第80回全国大会』	6．最初と最後の頁 pp．140-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hiroyuki Furuya	4．巻 43
2．論文標題 ‘Adam Smith, John Stuart Mill and the Great Irish Famine’	5．発行年 2016年
3．雑誌名 The 43rd Annual Conference of the History of Economics Society (HES), Conference Program and Abstracts	6．最初と最後の頁 p. 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Hiroyuki Furuya	4．巻 38 (3)
2．論文標題 ‘Book Review of Brian Bonnyman, The Third Duke of Buccleuch and Adam Smith: Estate Management and Improvement in Enlightenment Scotland (Edinburgh: Edinburgh University Press, 2014)’	5．発行年 2016年
3．雑誌名 The Journal of the History of Economic Thought	6．最初と最後の頁 pp. 407-410
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 古家　弘幸	4．巻 40
2．論文標題 「書評　ロンルド・L・ミーク著『社会科学と高貴ならざる未開人―18世紀ヨーロッパにおける四段階理論の出現』田中秀夫・監訳、村井路子・野原慎司・訳（昭和堂、2015年）」	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『社会思想史研究』	6．最初と最後の頁 pp. 185-188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hiroyuki Furuya	4．巻 58 (2)
2．論文標題 ‘Book Review of Lars Magnusson, The Political Economy of Mercantilism (London: Routledge, 2015)’	5．発行年 2017年
3．雑誌名 The History of Economic Thought	6．最初と最後の頁 pp. 43-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 古家　弘幸	4．巻 晃洋書房
2．論文標題 「「第三の道」をめぐる英国政策事情―ブレア労働党政権10年史（1997-2007年)」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 徳島文理大学大学院総合政策学研究科・編『総合政策学入門』	6．最初と最後の頁 pp．129-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古家　弘幸	4．巻 晃洋書房
2．論文標題 「アダム・スミスにおける国防と経済」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 小峯敦・編著『戦争と平和の経済思想』	6．最初と最後の頁 pp．52-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古家　弘幸	4．巻 14
2．論文標題 「ウィリアム・ロバートソンの生涯と著作」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『ピューリタニズム研究』(日本ピューリタニズム学会)	6．最初と最後の頁 p．76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hiroyuki Furuya	4．巻 32
2．論文標題 ‘War and Economy in Adam Smith’	5．発行年 2019年
3．雑誌名 The 32nd Annual Conference of the History of Economic Thought Society of Australia (HETSA), HETSA 2019 Abstracts	6．最初と最後の頁 p．5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 古家　弘幸	4．巻 27
2．論文標題 「ウィリアム・ロバートソンの生涯と著作」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『Newsletter』(日本ピューリタニズム学会)	6．最初と最後の頁 p．5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計15件（うち招待講演　4件／うち国際学会　9件）

1．発表者名 Hiroyuki Furuya
2．発表標題 ‘National Defence and the Wealth of Nations in Adam Smith’
3．学会等名 The European Society for the History of Economic Thought (ESHET), Campus de Somosaguas, Facultad de Economicas y Empresariales, Universidad Complutense de Madrid, Madrid, Spain（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 Hiroyuki Furuya
2．発表標題 ‘Adam Smith on the State: Cosmopolitan or Economic Nationalist?’
3．学会等名 International Conference on Economic Theory and Policy, Academic Common, Meiji University, Tokyo（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 Hiroyuki Furuya
2．発表標題 ‘National Security and Economic Growth in Adam Smith’
3．学会等名 The History of Economics Society (HES), Faculty House, Columbia University, New York, US（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 Hiroyuki Furuya
２．発表標題 ‘The Wealth and Power of the Nation, or the Object of Political Economy, in Adam Smith’
３．学会等名 International Conference on Economic Theory and Policy, Meiji University, Tokyo（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hiroyuki Furuya
２．発表標題 ‘War and Economy in Adam Smith’
３．学会等名 The History of Economic Thought Society of Australia (HETSA), University of Sydney, New South Wales, Australia（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 古家　弘幸
２．発表標題 「ウィリアム・ロバートソンの生涯と著作」
３．学会等名 日本ピューリタニズム学会関西部会、キャンパスプラザ京都・京都大学サテライト講習室（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hiroyuki Furuya
２．発表標題 ‘State, Nation, and Cosmopolitanism: From Mercantilists to Adam Smith’
３．学会等名 The 44th Annual Conference of the History of Economics Society (HES), SAT1F Session: ‘Consumers, Markets and Externalities’, Trinity College, University of Toronto, Toronto, Ontario, Canada（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Hiroyuki Furuya
２．発表標題 ‘John Stuart Mill on the Irish question during the Great Famine’
３．学会等名 International Conference on Economic Theory and Policy, Liberty Tower, Meiji University, Tokyo（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 古家　弘幸
２．発表標題 「英国現代社会民主主義における平等の概念」
３．学会等名 イギリス哲学会関東部会第100回研究例会、慶應義塾大学（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 古家　弘幸
２．発表標題 「古典派経済学とアイルランド大飢饉」
３．学会等名 経済学史学会第80回大会、東北大学
４．発表年 2016年

１．発表者名 Hiroyuki Furuya
２．発表標題 ‘Adam Smith, John Stuart Mill and the Great Irish Famine’
３．学会等名 The 43rd Annual Conference of the History of Economics Society (HES), Duke University, Durham, North Carolina, US（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Hiroyuki Furuya
２．発表標題 ‘Classical Economic Theory and Policy during the Great Irish Famine’
３．学会等名 International Conference on Economic Theory and Policy, Liberty Tower, Meiji University, Tokyo（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 古家　弘幸
２．発表標題 「経済思想史における国家、ネイション、コスモポリタニズム―重商主義からアダム・スミスを中心に」
３．学会等名 シンポジウム「18世紀ブリテン世界におけるコスモポリタニズム―ヒューム、スミス、バークの所論から」、東洋大学（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 古家　弘幸
２．発表標題 「礫岩政体、自然法、通商―近世欧州の戦争と経済」
３．学会等名 「戦争と平和の経済思想」第2回研究会、兼第35回京阪経済研究会、北海道大学東京オフィス
４．発表年 2017年

１．発表者名 古家　弘幸
２．発表標題 「スコットランド啓蒙―社会科学の源流」
３．学会等名 総合政策学研究会第6回研究例会、徳島文理大学大学院総合政策学研究科（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

１．著者名 八幡和郎・他との共著	４．発行年 2016年
２．出版社 祥伝社黄金文庫	５．総ページ数 pp. 351
３．書名 『アメリカ歴代大統領の通信簿―44代全員を5段階評価で格付け』	

１．著者名 八幡和郎・他との共著	４．発行年 2020年
２．出版社 清談社Publico	５．総ページ数 pp. 384
３．書名 『365日でわかる世界史―世界200カ国の歴史を「読む事典」』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

徳島文理大学HP・各教員の業績及び保有学位
http://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/teacher/1050039.pdf
徳島文理大学HP・Webシラバスシステム
http://ss.pt.bunri-u.ac.jp/syllabus/teacher_ichiran.php?ID=1050039&FACID=8A&year=2016
Read researchmap
http://researchmap.jp/read0144022/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考